

2026年7月3日

公益財団法人イオン環境財団

「わくわくジオパークフェスタ2026」開催

公益財団法人イオン環境財団（理事長 岡田元也 イオン株式会社 取締役兼代表執行役会長以下「当財団」）は、2026年7月11日（土）・12日（日）の2日間、イオンモール仙台上杉4階「KAMISUGI ONEPARK」にて、「わくわくジオパークフェスタ2026」を開催します。

ジオパークは、地球科学的に意義のある地質遺産や景観が、保護、教育、持続可能な開発のすべてを含んだ総合的な考え方によって管理され、一つにまとまったエリアです。

当財団と日本ジオパークネットワーク（以下「JGN」）は、2022年にそれぞれが有する人的・物的資源を活用し、持続可能な社会の実現に向けて、人と自然資本（地質遺産）との共生および各ジオパーク所在の地域の発展に寄与することを目的として連携しました。

本フェスタもその一環として、ジオパークのストーリーに基づく展示や体験、特産品紹介等を通じて認知向上と現地への誘客創出を目的に実施するものです。これらの取組みにより、人と自然が共生する持続可能な地域社会の実現と人材の育成に貢献してまいります。

今後も、ジオパークとの連携を通じて、生物多様性の保全と地域資源の持続可能な利活用を推進し、人と自然が共生する社会の実現に向けた様々な取組みを推進してまいります。

【概要】

開催日時	2026年7月11日（土）10:00～17:00 2026年7月12日（日）10:00～16:00
開催場所	イオンモール仙台上杉4階 「KAMISUGI ONEPARK」 宮城県仙台市青葉区堤通雨宮町1番1号
主催	公益財団法人イオン環境財団
出展 ジオパーク	下北（青森県）／三陸（青森県・岩手県・宮城県）／八峰白神（秋田県）／ 男鹿半島・大湯（秋田県）／鳥海山・飛鳥（山形県・秋田県）／ゆざわ（秋田県）／ 栗駒山麓（宮城県）／蔵王（宮城県）／磐梯山（福島県）
出展内容	<p>■ ステージイベント</p> <p>ほたて貝殻積みの達人／ジオビンゴ大会／手のひら磐梯山釣り競争／三陸ジオクイズ／ 見えない火山紹介／「リゾート しらかみ車内ガイド」の紹介/段ボールであつたかベッド作り競争</p> <p>■ ワークショップ</p> <p>VRでジオパークの空中散歩／海からのおくりものによるアート体験/ 「木のしおり」をつくろう/世界にひとつだけ！ホタテ貝殻アート体験/ 蔵王らしさを感じよう！（VR体験）/手のひら磐梯山作り/ポケふたぬりえ/ 見えない火山体験（地熱・温泉・発電など）</p> <p>■ 展示企画</p> <p>東北各地区ジオパークおよび当財団による紹介展示やクイズラリーなど楽しみながら学べるコンテンツをご用意しております。</p>

以上

<ご参考>

【公益財団法人イオン環境財団とジオパーク連携について】

当財団は、2022年10月に特定非営利活動法人日本ジオパークネットワークと包括連携協定を締結しました。両者が有する人的・物的資源を活用し、気候変動や生態系保全、地域社会の課題解決に取組み持続可能な社会の実現を目指しています。

本連携では、地質遺産をはじめとする自然資本の価値を広く発信するとともに、地質・地形と生物、歴史文化、産業とのつながりについて理解を深める環境教育の推進に取り組んでいます。また、ジオパークの認知向上を通じて地域への来訪促進を図り、域内外の交流拡大による地域の持続的な発展に寄与していきます。

【公益財団法人イオン環境財団】

お客さまを原点に平和を追求し、人間を尊重し、地域社会に貢献する。」というイオンの基本理念のもと、岡田卓也（当財団名誉理事長、イオン株式会社 名誉会長相談役）により、日本で初めて地球環境に特化した民間企業単独の財団法人として1990年に設立されました。以来、「植樹」「助成」「環境教育・共同研究」「顕彰」の4つの事業活動を中心に活動しています。現在は、持続可能な地域の実現を目的に、新たな里山づくりにも取り組んでいます。

（イオン環境財団HP：<https://www.aeonkankyozaidan.or.jp/>）

■「植樹」事業

万里の長城での植樹をはじめとする植樹活動は、国内外の地域行政と協力し、自然災害や紛争・伐採などで荒廃した森の再生を目的に、アジアを中心に世界各地のボランティアの皆さまとともに活動を継続実施してまいりました。当財団の植樹を含むイオン全体の植樹本数は、1991年から累計約1,287万本（2026年2月末時点）となります。

■「助成」事業

世界各地で環境活動に積極的に取り組む非営利団体に対して、毎年総額1億円の助成支援を行っています。2025年までの35年間で、累計3,657団体、助成金額は32億9,235万円となりました。第36回助成公募のテーマを「里山の保全と利活用」とし、各地の里山が抱えている様々な課題解決に取り組む団体を募集します。

■「環境教育・共同研究」事業

国際的な専門機関と連携し、里山に関する共同研究を行うとともに、環境分野で活躍する人材育成プログラムを実施しています。大学連携では、京都大学・千葉大学・東京大学・東北大学・早稲田大学と、地域が求める里山づくりを推進しています。国連大学とは、グローバルで活躍する環境リーダーを育成するプログラムをスタートしました。また、日本ユネスコエコパークネットワーク・日本ジオパークネットワークとは、生物多様性や地質遺産の保全と利活用による持続可能な地域社会を目指し連携しています。

■「顕彰」事業

当財団は、2010年に開催された生物多様性条約第10回締約国会議（COP10）を契機に生物多様性条約事務局（SCBD）と協定を締結しました。これを受け、同年に「生物多様性みどり賞（The MIDORI Prize for Biodiversity）」を創設しています。

本賞は、生物多様性の保全と持続可能な利用の推進に顕著な貢献を果たした個人を顕彰するものであり国際的なパートナーシップのもと、その功績を世界に発信しています。

このたび、2026年度第9回生物多様性MIDORI賞につきまして、2名の受賞者が決定しました。なお、授賞式は2026年8月27日に帝国ホテル東京にて執り行う予定です。

2025年度わくわくジオパークフェスタ（イオンモール盛岡）

